

事例で深める！

学習評価

実践校の取り組みを基に、
学習評価をより充実させるポイントを
田村先生がアドバイス

北海道滝川西高校

評定への総括の組み合わせの 議論を通じて、評価の質を向上

観点間の関係性を踏まえ、各観点
の評価結果の組み合わせを絞る

田村 貴校は、観点別学習状況の
評価（以下、観点別評価）の結果
を評定に総括する方法を見直した
と伺いました。

一條 本校は2022年度に、各観
点の評価結果の組み合わせから評
定に総括する方法（図①）を採用し、
23年度までその方法で評価してき
ました。しかし、24年度に着任した
三井校長から、その方法の懸念点が
示され、見直しが提案されました。
三井 着任後、評定に総括する方
法について聞いたところ、内規に
示された3観点の評価結果の組み
合わせ、すなわちA、B、Cの並び

順は、「知識・技能」「思考・判断・
表現」「主体的に学習に取り組む態
度」の順ではなく、その組み合わ
せであれば、並び順は問わないと
いうことになっていました。

しかし、各観点で評価する内容
や、観点間の関係性を踏まえると、
例えば、「知識・技能」がCで、「思
考・判断・表現」と「主体的に学
習に取り組む態度」がAやBの「C
A」「C B」は極めて起こりに
くいと考えられます。そこで、文
部科学省から示された学習評価の
考え方を改めて確認した上で、起
こりにくい組み合わせを評定への
総括の対象から外し、妥当性があ
ると考えられる7通り（図②）に絞
るとよいのではないかと、先生方

に提案しました。

田村 観点間の関係性について深
く理解した上で、「起こりにくい組
み合わせがある」という視点から評
定に総括する組み合わせを整理し
たそのプロセスは、極めて価値のあ
るものです。先生方は、これまで3
つの観点を個別に捉えた評価から、
観点間の関係性を踏まえた評価に
転換することになり、評価の視点や
方法を根本的に見直す、意義深い機
会になったのではないのでしょうか。
三井 そつだと思えます。24年度の

北海道滝川西高校プロフィール



左から／一條直紀（教務主任、数
学科）、三井智和（校長）、押上恭徳
（1学年主任、数学科）

設立 1972（昭和47）年
形態 全日制／普通科・情報マネジメン
ト科／共学
生徒数 1学年約200人
2024年度卒業生進路実績 国公立大
は、小樽商科大、帯広畜産大、北海道教
育大、北海道大、室蘭工業大、札幌市立
大などに22人が合格。私立大は、札幌大、
北星学園大、北海学園大、北海道医療大、
立命館大などに延べ115人が合格。短
大・専門学校進学75人。就職31人。

アドバイザー



文部科学省 初等中等教育局
主任視学官
田村 学 たむら・まなぶ

専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラ
ム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教
授などを経て、現職。著書に、『学習評価』（東
洋館出版社）など多数。

図 各観点の評価結果の組み合わせと評定の対応表

	状況	十分満足できるもののうち、特に高い程度のもの	十分に満足できると判断されるもの	概ね満足できると判断されるもの	努力を要すると判断されるもの	努力を要すると判断されたもののうち、特に程度が低いもの
① 2024年度 前期まで	各観点の評価結果の組み合わせ	AAA、AAB	ABB、AAC	BBB、ABC ACC、BBC	BCC	CCC
	評定	5	4	3	2	1

A、B、Cの並び順は問わない。

② 2024年度 後期	各観点の評価結果の組み合わせ	AAA、ABA	ABB	BBB、BCB	BCC	CCC
	評定	5	4	3	2	1

A、B、Cの並び順は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順。

③ 2025年度 から	各観点の評価結果の組み合わせ	AAA (ABA、BAA)	ABB (BAB)	BBB (BCB、CBB)	BCC (CBC)	CCC
	評定	5	4または3	4または3	3または2	2または1

A、B、Cの並び順は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順。()の組み合わせは、「知識・技能」と「思考・判断・表現」が連動しない場合のみ。

※学校資料を基に編集部で作成。

後期は7通りを基に評定に総括したところ、特に実技を伴う教科から、『思考・判断・表現』の評価において必ずしも『技能』の活用を前提としないケースがあり、結果として、

『知識・技能』の評価と連動しない場合がある」といった意見が年度末に出了た。それを踏まえて再度、教務部と協議し、25年度の評定に総括する方法を見直すことにしました。

評価する内容を言語化し、評価の目線を合わせる

田村 三井校長が先生方に配布された資料は、観点別評価の考え方や校内の課題、ご自身の考察が丁寧にとめられていて、先生方が評価方法を見直すための足場かけになっていると感じました。24年度末に出た各教科・科目からの意見を踏まえ、評定に総括する方法をどのように見直しましたか。

一條 発表やレポートなどによるパフォーマンス評価を行う際、「知識・技能」が「B」でも、「思考・判断・表現」が「A」になる場合があるので、ではないかといった声があり、4通りを追加した11通り(図③)で評定に総括することにしました。

田村 7通りに絞って総括をした時の違和感を基に、再び見直して11通りにし、教師がより納得する総括のあり方にたどり着いたのですね。
押上 私が担当する数学科では、その見直しをきっかけに、「思考・判断・表現」の評価の精度をより高めようと議論しています。答えまでの

過程を書き出させて評価する課題を出すなど、定期考査の問題や発表の課題などの設計において試行錯誤しています。

田村 発表やレポートなどによるパフォーマンス評価においては、評価規準を明確にすることが重要です。「よい発表だった」の「よい」が、内容に関するものであれば「思考・判断・表現」の、粘り強さや自己調整に関するものであれば「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象になります。

その点を明らかにするため、評価する内容について教師間で話し合い、言語化してみましよう。評価観や指導観、評価規準の目線を合わせるモデレーションになります。それにより、観点間の関係性を踏まえた評価の質がさらに高まり、授業改善にもつながるでしょう。

三井 観点別評価の考え方を改めて整理できました。今後も現場の意見を聞きながら、評価のあり方・方法を見直し続けていきたいと思っています。

Web VIEWnext ONLINE

関連記事は [こちら](#)!

今回のテーマに関連する過去の記事は、教育情報総合サイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。次の関連記事の各タイトルをクリックしてアクセスしてください。▶ 2024年10月号「事例で深める! 学習評価」静岡県立静岡東高校 ▶ 2024年2月号「そうだったのか! 学習評価」評定への総括の考え方と方法 ▶ 2023年12月号「そうだったのか! 学習評価」評価規準の設定と運用のポイント